



もんぜんろくちょう

タイトルの3つの色は、鬼すべの際の誓固・鬼係・燵手の法被の色をイメージしたものです。

協議会の目的と活動

太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会は、太宰府天満宮門前六町（三条・連歌屋・馬場・大町・新町・五条）の自治会長から推薦を受けた方々12名で構成されています。本協議会は、太宰府天満宮門前の歴史的風致の維持向上を目的とした歴史的市街地づくりを行うことで、地域の活性化などを促し生活環境の向上を図るための協議会です。そのために門前六町の方々からの意見を集約し、門前のまちづくりの方針を検討し、行政と協働で住み良い環境、憩えるまちを創り出していきます。太宰府市も構成員のひとりとして参画しています。

太宰府市歴史的風致維持向上計画

太宰府市では、太宰府の個性を活かしたまちづくりに取り組むため、平成22年度から国土交通省・農林水産省・文部科学省の三省が取り組む、歴史的風致維持向上計画を策定し、『太宰府市歴史的風致維持向上計画』として認定を受け、平成22年度から平成31年度までの10年間、太宰府のまちづくりに取り組んでいます。

歴史的風致とは、①地域固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動、②その活動が行われる歴史上価値の高い建造物、③その周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境という3つからなるもので、歴史ある人々の活動と環境が組み合わさったものです。

この計画の中で、太宰府天満宮門前は、太宰府を物語る上で欠くことのできない歴史的風致を有する地域として、平成22年度からまちづくりを進めています。

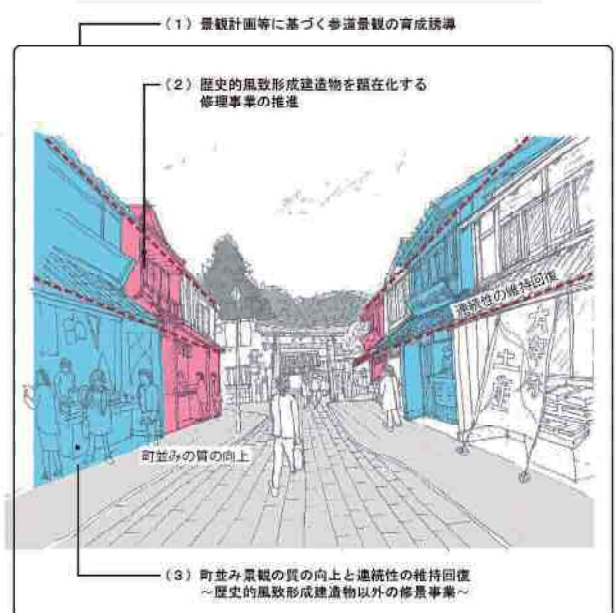
天満宮門前のまちづくり

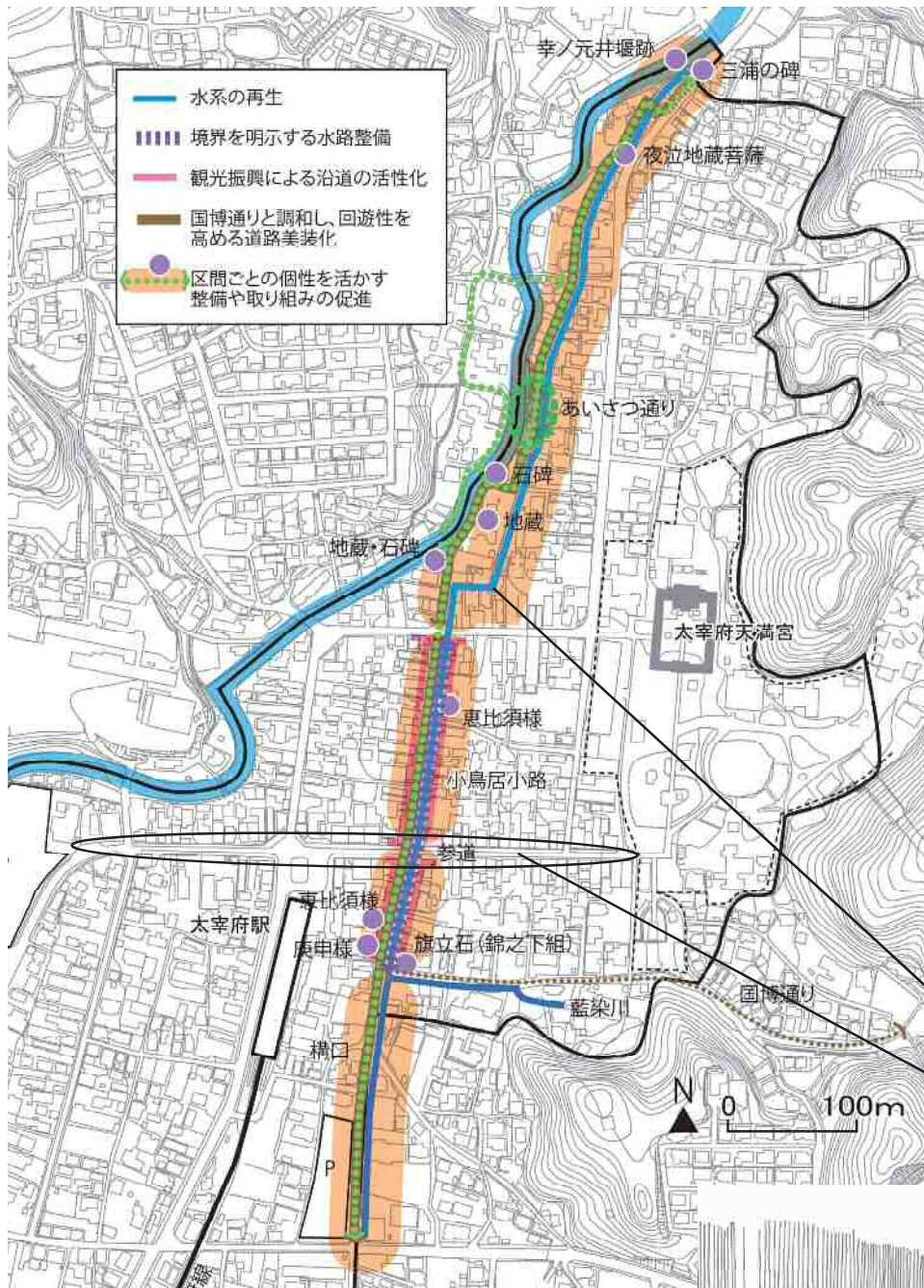
太宰府天満宮門前は、天満宮の祭事を支える門前六町（三条・連歌屋・馬場の上三町、大町・新町・五条の下三町）によって構成され、江戸時代後期から盛んになる「さいふまいり」の活気を今に伝える街をかたちづいています。

参道には、江戸後期からの建造物があり、西郷隆盛、坂本竜馬など多くの著名人が立ち寄った場も残されています。これらの歴史的文化遺産を活かし、太宰府の個性を育てることで、太宰府天満宮門前の街なみを取戻すための話し合いを門前協議会では行っています。

平成25年度は、参道の街並み形成や平安時代に起源を求められることができる小鳥居水路の利活用について話し合いました。現在も、その利活用については協議中で、決定されたものではありません。平成26年度以降に、もう少し踏み込んだ議論を行っていきます。

天満宮門前としての風格や連続性が感じられる参道景観の形成





具体的には、以下のような内容です。

■参道

参道の街並みをつくるため歴史的な建造物の保存修理や緑化を進めています。今後は、現代的な建造物も含め、太宰府天満宮門前の街並みづくりを進めていきます。

■幸ノ元溝尻水路

太宰府天満宮の社地と町場を分かつ水路は、取水口である幸ノ元井堰が、平成15年の豪雨災害によって崩壊し、その後は水路の流水景観が失われてしまいました。この流水景観をもう一度取り戻し、小鳥居小路の活性化を促したいと考えています。ただし実現までには、様々な課題があり、今後も話し合いを続け、観光核としての小鳥居小路の街並みを創るために望ましい姿を求めていきたいと思います。

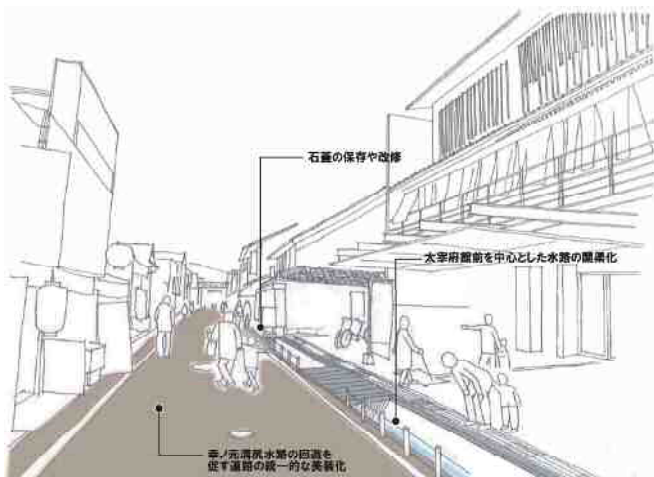
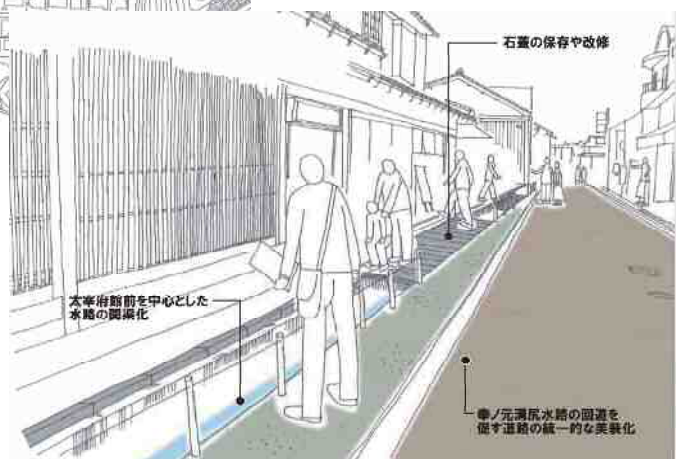
幸ノ元溝尻水路

天満宮参道

幸ノ元溝尻水路事業図

上：水路整備基本計画【案】

右・下：小鳥居小路の整備イメージ【案】



もんぜんろくちょう お知らせ

編集・発行 太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会
 【事務局 太宰府市建設部都市計画課 景観・歴史のまち推進係】
 発行日 平成26年3月31日
 印刷 樋口印刷基山工場